

千葉氏の海の守護神

あまてらすおおみかみ

しんめいじんじゃ

ゆうきしんめい

天照大神を祭神とする神明神社は、古い記録に、「結城神明」として千葉氏の

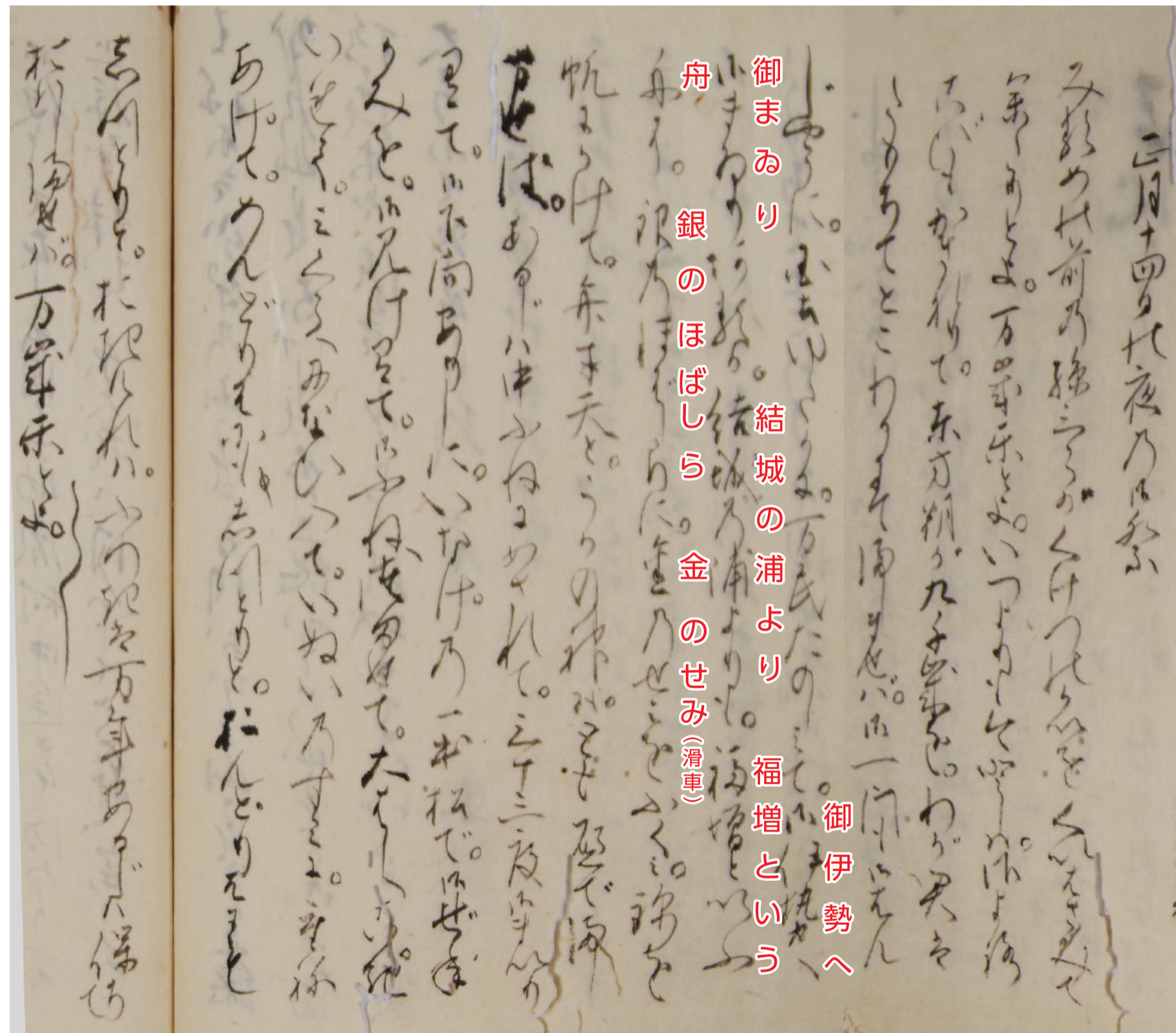
守護神の一つにあげられています(『千学集抜粹』)。

せんがくしゅうばっすい

ゆうきうら

ちばみなと

かつて都川河口付近には、入江(結城浦)を利用したみなと、千葉湊がありました。千葉氏は水運を通じて鎌倉などと経済的つながりを持つ海の領主でもあり、千葉湊は大変重要な施設でした。その近くにある神明神社は、千葉氏の海上の守護神として、航海の安全を祈願していました。



正月を祝う祭りで詠まれた歌(『千学集抜粹』(個人蔵))

結城浦から福増というおめでたい名の船に乗り、伊勢参りに行こう、などと歌われています。

神明神社の総本社は、海運と関係するとされる伊勢神宮ですが、千葉氏は古くから伊勢神宮とつながりがありました。神明神社が建てられたのは千葉氏が千葉に本拠を移したころとも言われますが、千葉氏は同じ時期に領地の一部を伊勢神宮に寄付しています。

都川河口の砂州、妙見洲にかつて存在した寒川神社の鳥居は、元は神明神社のものと伝えられており、千葉湊に入る船の目印となっていたと考えられます。また、亥鼻台地にも神明社がまつられていますが、こちらも、海から見てこの台地が千葉湊の目印となったためと考えられます。

みょうけんす

都川河口の砂州、妙見洲にかつて存在した寒川神社の鳥居は、元は神明神社のものと伝えられており、千葉湊に入る船の目印となっていたと考えられます。また、亥鼻台地にも神明社がまつられていますが、こちらも、海から見てこの台地が千葉湊の目印となったためと考えられます。



15世紀中頃の千葉湊周辺図